

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270401195		
法人名	医療法人 七久会		
事業所名	グループホーム おこんご	ユニット名	
所在地	長崎県諫早市小長井町小川原浦656番地		
自己評価作成日	平成27年11月25日	評価結果市町村受理日	平成28年3月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成28年1月20日	評価確定日	平成28年2月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

窓から有明海、その先に雲仙を眺める事ができる場所にあり、医院と同じ建物の中にあるユニットなので、救急時の対応に、ご家族様も安心して頂いております。又医院受診時に尋ねて来られる方もあり、コミュニケーションの場となっております。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホームおこんご”は諫早市小長井町にあり、先代の院長先生が昔の地名である「おこんご」をホーム名に付けられた。母体法人である山崎医院がかかりつけ医の方が入居されており、24時間体制で医療連携できる事への信頼は大きい。自立支援の視点も大切に、病院のリハビリに行かれる方も多く、少しでも維持・向上できる事を目指している。意思疎通が難しく、車いすを利用される方もおられる中、職員は優しく声かけし、理念に通じる「自然と笑顔が出るように」寄り添いを続けている。半身麻痺等の方の自立支援も検討し、食事中のスプーンの形態やランチョンマット等の工夫と共に、座位保持が安楽になるための背もたれを含め、職員が手作りしている物も多い。28年夏にはホームの裏手に新築移転する事が決まっており、今後も“この町のつながりを持ちながら”新たな環境の中で最適な生活(ケア)の在り方を検討していく予定である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安らかな笑顔の追求」に地域密着型サービスの意義を踏まえたサブタイトルを付け「この町のつながりを持ちながら」この理念を意識しながらご利用者と関わるよう職員間で意識付けしている。	馴染みの職員が多く、理念にある「安らかな笑顔の追求」を続けている。行動障害の原因分析と共に、ご本人を主体にした解決策を検討し、「笑顔」に繋がる成果が出てきている。理念には自立支援の視点も盛り込まれており、ご利用者個々の能力を見極め、自立に繋げるための方法を検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接のグループホームの交流や併設の病院を受診された方の面会。又入院患者様との定期的な交流会も実施している。	小学生との交流も恒例で、小学生からのお手紙も届いている。地域の「ふるさと祭り」でフルーツジャムと写真を撮られたり、系列のケアハウスと合同で敬老会を行い、ご利用者も一緒に皿踊りを楽しむ事ができた。地域の精霊流しでは、ご利用者も手を合わせる姿が見られていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症研修等の参加をし関わりを持ってたり、実習生も受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出された意見は、カンファレンスにて全スタッフに報告して、サービスの向上に活かしている。	会議では行事報告やご利用者の状況を伝えている。27年から民生委員も参加して下さり、ホームの役割や運営推進会議の目的を説明し、地域の方々に伝えて頂いている。今後も参加者の方々からアイデアを頂きたいと考えており、ホームの移転に伴っての課題等を会議で検討していく予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険の更新手続きや運営推進会議に出席して頂くことにより顔を合わせる機会も多く、グループホームの実情を伝えながら協力体制を取って頂くようにしている。	事務長が市の担当者にホームの移転に関する報告を続けている。オムツの申請や生保の書類関係の質問等は支所の方に相談し、地域行事の日程も教えて頂いている。ケアマネが市の窓口を訪問する事も多く、適宜アドバイスを頂いている。本庁からもファックスで感染症情報が届いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	生命に危険がある場合のみを原則として、基本的に拘束しないように取り組んでいる。	ベッドから転落の可能性がある方は見守り等を行い、マット等の転落時の対策も取られている。ご本人の「痛み」と「自立」への思いも受容し、主治医からの指示も頂きながら、自立支援が行われている。身体拘束に繋がる状況が発生した場合も代替えケアを実践し、身体拘束廃止に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はないが、言葉による虐待をしないように注意し、防止に努めている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常の金銭管理等を自分で判断が難しく、家族の支援が受けられない利用者の方が利用されており、支援員の方が定期的に面接に来られている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書、契約書の説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や施設サービス計画書の作成時、利用者様や家族様に意見や意向を尋ねている。また、面会時や日常の中で気軽に声をかけてもらっている。意見箱も設置している	協力的な家族が多い。面会時にお話を聞き、年間計画や運営推進会議の議事録等も家族に渡し、意見を伺っている。病状の不安等も話して頂き、医師と職員も一緒に検討している。今後も移転に関する話し合いの機会を設けると共に、“お便り”の再開等も考えられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度カンファレンスを開催しており、必要性のある意見に対しては案を作成して、代表者に提案し活動に繋げている。	職員間で意見交換し、アイデアや意見を出し合っている。「失敗してもいい。まずはやってみよう」と言う管理者の合言葉を基に、1か月は実践し、その後のモニタリングも行われている。カンファレンスを欠席される職員からは事前に意見を伝えて頂き、管理者が会議で伝達している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	行事の際、休日出勤者に対しては超勤書類を提出し給与にプラスしてもらっている。希望公休2回、勤務変更届け出も制限なく変更できるように配慮してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内は観覧できるように提示し、カンファレンス等でも研修の声かけを行い、できるだけ参加するよう呼びかけている。研修は勤務扱いにしてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修や院内の勉強会に参加し他施設のスタッフと交流を図り、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居された段階で本人の声に直接耳を傾け、ゆっくりと話ができる時間を確保して、支援に繋げる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までにおける状況を把握した上で、家族様が困っていることや不安、要望(具体的内容)も聞きながら、相談にのれるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い状況等も確認し、何が必要かを見極め、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、本人の生活歴等伺いながら生活の知恵など教えてもらうこともある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の様子や職員の思いをきめ細かく伝えることで、本人を支えていくための協力関係を築ける事が多くなってきた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	夏冬の帰省や外出、地域行事への参加、家族への声かけをはじめ、訪問された方との会話の橋渡し等に努めている。入院患者さんのお見舞いに行かれる。	散歩中や祭りの時に馴染みの方が声をかけて下さる。支所の方から小長井特産の赤米の見物場所を教えて頂き、「ここは〇〇さんの畑」「ここは自分の畑」等、ご利用者が教えて下さっている。医院に入院中の知人や親戚のお見舞いに行かれたり、馴染みの美容室に行かれる方もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで楽しく過ごす時間を持ち孤立しないように、スタッフが間に入り会話の橋渡しや気持ちの代弁をしたり、関わり合いができるよう支援している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のスタッフに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	経過フォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	情報収集に努め、本人様から意向をお聞きするのが難しい場合は、家族様にお伺いし思いを支援に繋げている。	ホーム独自のアセスメントシートを活用し、カンファレンスで共有している。日々の会話の中から、好きな事やしたい事等を伺い、「家に行きたい」「畑に行きたい」等の希望を叶えるようにしている。意向の把握が難しい方は家族に伺うと共に、ご本人の言葉や表情から真意を理解するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	独自のアセスメントシートを作成し、本人様や家族様、第三者からの情報提供を書き込み把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	実際の関わり合いと日常の記録記入、特変の有無、日常のスタッフの情報交換の中から現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様や家族様には日ごろの関わりの中で思いや意見を聞き、反映させるようにしている。アセスメントを含め全職員での意見交換、カンファレンスを行い介護計画を作成している。	ご本人、家族、医療関係者、職員からの意見を基にケアマネが計画の原案を作成し、カンファレンスで話し合っている。リハビリにも取り組み、皮むきや洗濯物たたみ、水やり等の役割も盛り込まれ、体調変化に応じて、適宜計画の見直しを行っている。	24時間の日常生活全般(ADL・IADL・認知等)のアセスメントが行われている。今後は記録の残し方を検討すると共に、歩行や排泄を含めて「できそうな能力」と「要望」を見極め、短期目標に盛り込んでいく予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの様子や本人の言葉等の記録が以前より記録できているが、言動や行動が無い方の様子が伝わる記録が少ない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対応しているが、サービスの多機能化については実践できていない。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昔からの自治会行事に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設医院のかかりつけ医の方が殆どで、ドア一枚向こうの医院へ受診、往診ができています。	24時間体制で併設医院に相談でき、往診(歯科も)も受けられる。家族が受診介助された時も含めて情報共有できており、必要に応じて医師からの説明が行われている。体調変化は併設医院に報告し、夜間は医院の看護師による巡視もあり、職員の安心になっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接なので看護師に報告し、受診時即対応してもらい、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設医院なので、Drにより利用者様、ご家族に説明を行い、その後の情報も交換できている。他の医療機関時はお見舞いに行き、情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関併設の為、Drと事業所の代表者、ご家族との間で話し合いを持ち、意向をお聞きしている。看取りの支援も行った。	重度化や終末期に向けた方針として、介護より看護に比重が大きくなってきた時は、職員と主治医、家族と話し合い、併設医院への入院やホームでの看取り等が決められている。「最期はここで」と願う方もおられ、家族の協力も頂きながら、ご本人が安心して過ごせるように誠心誠意のケアが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	医療機関が併設の為、急変や事故発生時には報告し指示を受けている。すべての職員が実践力を身につけているとは言い難い。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	事業所だけでなく、併設の医療法人全体、隣接のグループホームと一緒に取り組んでいる。	年に2回、併設医院と隣のホームと合同で昼夜想定訓練を行っている。緊急連絡網の連絡訓練も行われ、夜勤時は医院の夜勤者(2名)とホームの夜勤者(2名)が協力し、初期消火や通報、避難誘導等を行う訓練もしている。近所の方にも協力を依頼し、地元の第3分団の消防団長に災害時に連絡できる体制も整えられ、訓練時の声かけもしている。今後は移転後の訓練方法も検討していく予定である。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のスタッフに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり生きてきた人生、歴史があり色々な経験や思いがある。それを否定せず受容し共に寄り添う声かけや対応を心がけている。	ご利用者が傷つく言葉かけをしないように注意し、行事等の参加への希望も確認している。トイレでは同性介助も行われ、居室内にオムツが露出しないように、手作りのボックスに保管している。個人情報の管理にも注意し、情報漏洩しない取り組みを続けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声かけを行い、意思疎通が困難な方には表情を読み取ったり、ジェスチャーや文字を利用し一人ひとりの利用者が自分で決める場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々一人ひとりのペースで過ごして頂いている。精神的に不安定な時があり行動に障害を感じられる時は見守りを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の準備をする際、本人に衣類を選んで頂いたり、自己決定しにくい方には、行事等はおしゃれができるよう支援している。また本人の馴染みの美容室でカットができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の意思があり、一緒に食事の準備や後片付けをしている。(一部のご利用者に限られる)	併設医院の厨房で作られており、ご利用者と一緒茶碗拭きやお盆拭き等をして頂いている。「カレーの日」も増やし、玉ねぎの皮むき等をして下さったり、焼きそばやホットケーキ、蒸かしいも(はっちゃん)やお団子等も一緒に作られている。移転後はプランター等での野菜作りも検討する予定である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じ、食事形態、誤嚥がないように配慮し、厨房スタッフとも連携している。毎食の食事摂取量も記録して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きの声かけを行い、その方に応じた見守りや介助を行っている。義歯の洗浄も行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日常は定時であるが、トイレ誘導を行っている。一部の尿便意のある方は、その都度トイレ介助を行いトイレでの排泄を支援している。	入居時におむつ使用の方も、誘導によりトイレでの排泄に繋げる事ができている。下着を着用し、排泄が自立している方もおられるが、トイレで転倒しないように見守りを続けている。昼間は全員トイレで排泄できており、夜間のみポータブルを使用する方もおられる。	今後も尿意・便意を把握する中で、少しでも失禁を減らすための検討を続けると共に、アセスメント用紙や介護計画の短期目標等に具体化し、ご本人の有する能力を引き出していく予定である。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつにバナナや蒸かし芋を提供したり、飲料水を多めに取って頂く。また野菜ジュースやヨーグルト飲料を取ってもらう等、工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	事業所だけでなく、医療機関全体での入浴支援を行っている為、基本的な入浴日、時間が決まっている。必要に応じ、事業所内の浴槽で入浴できるよう支援している。	併設の医院に入院されていた方も多く、ご利用者の希望で医院の大浴場でゆったりと入浴されている。ホーム専用の入浴時間も作られ、2人ずつ入浴されている。医院に入院中の馴染みの方と脱衣所で交流する機会もあり、会話を楽しまれている。機械浴も利用でき、安楽な入浴ができている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬状、お薬ノートを活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器、お盆拭きや洗濯たたみ等お願いし、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に沿って、戸外へ出かけられるよう支援している。	隣接する医院への外出も日常で、地域の方との交流を楽しまれている。外来のない日曜日には隣接医院の駐車場で日向ぼっこをしたり、散歩をしながら海を眺めている。秋桜、桜などのお花見を兼ねたドライブも行われ、タコが飾られたお店でお饅頭を買い、美味しく食べられている。ケアハウスのお祭りには、お化粧をして参加されている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭程度所持され、院内にある自販機からジュース等買われている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される時は事務所から本人自ら電話をされる。一部の利用者への支援が多い状態である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂のテーブルの色を統一し、食堂兼居間には季節に応じた工夫をしている。	玄関入り口には花々が植えられている。壁には外出した時の写真やお団子作りの写真を貼り、1階と2階の廊下に小学生からのお手紙や塗り絵を掲示している。リビングには空気清浄機を置き、換気も心がけている。リビングではレク等を行い、トランプ遊び等も楽しまれ、認知能力の把握に繋げている。	1階はリビングとトイレが隣接しており、職員は臭いへの対策(拭き掃除、消毒、消臭剤や換気等)を続けている。居室のポータブル利用後の臭い対策も含め、今後も更に家族等の来訪者に聞き取りを行い、対策の検討に活かしていく予定である。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	医院跡の事業所の為、個室以外の共同空間に余裕がなく、ハード面で難しい所がある。1階はソファを置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの寝具類や食器類を持参してもらっている。写真も持ち込まれている。	移動しやすいようにベッドの場所にも配慮し、転倒予防に努めている。テレビやラジカセ、携帯電話等と共に、家族の写真や遺影も飾られ、家族が買ってこられた人形や大好きな人形も飾られている。編み棒を持参している方もおられ、趣味が継続できる支援を続けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレ、廊下等には手すりを付けたら工夫している。照明の工夫。		